

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491200107		
法人名	株式会社 インテック		
事業所名	グループホーム大山田 いこいの里		
所在地	〒518-1421 三重県伊賀市真泥字瀧ノ谷2695番地の4		
自己評価作成日	平成29年10月27日	評価結果市町提出日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2491200107-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市桜町3690-4
訪問調査日	平成 29 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いこいの里家訓である「いつまでもその人らしく こち良い空間で いきいきとした時間をのんびりと穏やかに ささえ合いながら とともに生活を歩んごう」を職員全員で取り組んでいます。また、利用者様・家族様が望まれればラストステージを迎えることの出来るよう努めています。

自然豊かな施設、季節を感じられる施設環境で足湯を楽しんでいただき、一日中家庭的な雰囲気の中で、心身の痛みを緩和し、心を癒し、生活が満足出来るように導いていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「おはようございますと入っていくと、『おはよう。今日もよろしくね。』と言ってくれ、帰り際には、『今日もありがとう。』と言って玄関先で見送ってくれる。こんな利用者さん達が、私の誇りであり働き甲斐です。」、「人手が足りない時に、『待ってね。』を言わなければならない状態が心苦しい。」唐突な質問に答えてくれた2名の職員の意識の高さに頭が下がる。重度の利用者がずっと部屋にいるのはかわいそうと、朝食～リズム体操～コーヒータイムを、居間で見守り、居室で休む昼食までの間は30分毎に見守っている。認知症病棟経験者含め3名の看護師資格保持者がいる為、利用者に対する理解度やケアは厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いこいの里の家訓を理念とし、職員に一人ひとりが日々取り組んでいる。利用者が安心して在宅生活の延長で生活出来るように、職員には徹底している	施設長は職員に、「その人らしい暮らし」をどう理解し実践するかを日々の業務を通じて伝えている。日課を強制するのではなく、その人その人の生活スタイルを尊重するということを実践として取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が、集落と離れた位置にありなかなか地域との繋がりが取れないところがあるが、地域の行事等は出来るだけ参加し地域の一員であること意識付けている	地区の区長が非常に協力的で、火災時の協力、災害時の水確保のアドバイス、地域行事への招待等を得ている。近隣の利用者家族の協力を得て地域の祭りに参加したりと地域との関係性を継続した取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームがどのような施設であるかの理解が必要でありそのための理解を頂くために積極的に地区集会には参加するよう心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度から委員に民生委員を増加し、2ヶ月に1回開催し、テーマを決めて論議をいただいている。いただいた意見等は出来る限り反映に努めている	運営推進会議は、利用者が傍聴している形で開催されている。屋外活動の促進・認知症進行の予防改善、安全の確保という継続取り組みの進捗状況や避難訓練他時節毎のテーマの意見交換が活発に、積極的に検討、実行されていることが議事録からも理解できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは連携を取り合い、事業等の問題点を共有しながら事業を進めている	運営推進会議に毎回出席される市担当者から活発な意見やアドバイスを受け、運営の指針となっている。また、提出書類が難しすぎると市に進言し分かり易いものにして貰ったりと担当者との信頼関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止マニュアルを作成し、会議等で確認を行いながら、常に正しい知識と理解を持たせている。今までは無いが、緊急やむを得ない事象があれば、必ず理由・内容、解除までの時間を記録することとし、早急な解除に向けた活動を行うことを決めている。	独自にマニュアルにより、4本柵の代わりにベッドを低くし、こまめな皮膚掻痒ケア実施などの工夫により、身体拘束を行わない取り組みを実施している。玄関間が道路である事から、玄関は安全上二重ロックになっているが、居室や居間の大きな掃き出し窓からいつでも庭に出られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に、入居者を観察しながら、なぜこのようなところにアザがあるのかを全員で検証しながら、虐待防止に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業には、積極的に協力をを行い説明会等には、出来るだけ参加するよう心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者や家族に対し十分な説明を行い、納得がいただけるまで行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	色々なご意見をいただくようにご意見箱を設置し、面会時にご意見を頂く等したときには、必ず実行している。要望に迅速に対応するため、職員レベルで対応できないことはすぐに責任者に伝える事となっている。	面会頻度の関係上、家族との接点に差異はあるが、家族の要望に迅速に対応するよう指導が徹底している。運営推進会議は利用者が集う場所で開催され、いつでも意見が言える状況で行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面接を行い、職員の意見が広く反映させるようにしている。また、人事考課表を基に各自自己点検を行い、施設長によるフィードバックを行い必ず確認を行いながら進めている	施設長が職員全員に個人面談を行い面談時にフィードバックをしている。この機会を通じ待遇面施設運給に対する職員の意見は日常的に出されている。職員の提案に関しては運営に支障がない限り、受け容れられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長による個別面談や全体会議から職員から意見を徴収し、事業主に報告し改善を前向きに進めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が同一レベルで業務を行うことが大事であり、そのための指導が必要である。特に指導者は基本的なことを介護マニュアルに沿って順次指導していく必要があり、根気強く繰り返し指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は大切であり、勉強会等は必要と考えていますが、ネットワークづくり等は出来ていないのが現状です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族からの要望等は聞き入れながら進めています。特に初期段階での本人との信頼関係を築くことが大事であり、職員が一体となり関係づくりを構築している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や思いはサービス計画に反映し、家族と連絡を密にししながら生活が快適になるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に入られるまでの状況は家族から説明を受け、必要なサービス対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上から目線ではなく、本人と向かい合う必要がある。共に生活をする事の大切さを常にもって介護に当たっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への情報提供は大切であり定期的に連絡を取り、現状の生活状況等の報告を行っている。また、面会時には必ず現状報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの家族への連絡等の申し入れは、受け付けて連絡が途切れないように支援している。知人や近隣の人々への面会できるよう家族様にお願いをしている	手紙や年賀状を通じて馴染みの関係が途切れないよう支援している。馴染みの人の訪問時は、本人とのエピソードを聞き、利用者と訪問者の繋がりが継続できる様支援している。馴染みの美容院に通っている利用者もいる。	家族の来訪も疎遠になりがちなので、事業所から、利用者の様子をや家族への連絡事項等を交えた便りの発行など、関心を途切れないようにする取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は、利用者本人に任せられているが関係が悪化しないように常に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どうしてもサービスが終了してしまうと疎遠になりがちであるが、家族等が必要であればフォローは行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、職員が常にコミュニケーションを図りながら問題があれば常に全員で協議を行いながら進めている	毎日の関わりの中で、一人ひとりの思いを聞きだすよう努め、業務日誌に記録して情報を共有し、本人の意向がケアに反映できる様取り組んでいる。認知対応病棟にいた元看護師が中心となり利用者の特性と本情報の関係を良く理解している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活状況等は、基本情報で確認しながら日常生活の中で様子を見ながらご本人により添っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人にとって、グループの中でどのように生活していくか見守りながら把握に努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づきや意見を出し合いながら、意見調整を行い介護計画を作成し、家族の意見や主治医の意見を反映している	入居時に本人・家族の希望・要望、医療・保健情報等の詳細を聴き、主治医と職員の意見を合わせ、「その人らしく」暮らせる介護計画を作成している。支援計画は、定期的には勿論、状態変化の都度本人や家族の意見を反映し、モニタリング・評価を行い現状のケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り・業務日誌を常に職員で共有認識し、実践に取り入れている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況の変化があり、それにあった支援を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地域とのつながりを保ちながら、地域への参加を心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は築かれており、また、協力医は月2回の往診を受け適切な医療支援を行っている。看護師は医師からの指示事項を受け、全職員に指示事項の徹底を図っている	利用者は全員、入所と同時に協力医の担当となる。本人の掛りつけ医や専門医の受診は基本的に家族対応となっているが、必要により家族の負担を鑑み、職員が毎日点滴に同行するケースなど連携も築いている。。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師から、利用者の変化についてはどのようにするか指示あり、常に連絡を取れる体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の病状等は病院の地域連携室を通じて病棟看護師から状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する方針」明確にし、ターミナル計画を作成し、家族・職員が共有し、主治医と連携を密にとりながら支援している	看取りマニュアルを作成し、ターミナル期に入った利用者・家族の意思の確認、見取り契約、話し合いにより「看取りに関する方針」を統一し、家族・職員が共有して主治医と連携を密に取りながら支援しているが、長期についての看取りは想定していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状況を観察しどのように措置するか観察項目を設けて、看護師不在の場合は連絡を取りどのように対応するか日頃から教育をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、常に職員が利用者の状態を把握して非常に備えている。地域との連携は常に地区長と連携を密にしており、協力体制を築いている	地域の区長から災害時の避難場所や経路のアドバイス、火災時の消防団への連絡協力や、災害時の飲料水も確保できるようになった。避難誘導一覧表・職員緊急連絡網は作成済みである。	車イス利用者が多く、非常口からは車イスが出ない為、おぶつての避難や、ベランダからの避難の訓練も必要かと思われる。有事の際の利用者避難先の家族や市・区長への連絡網の作成も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おむつ交換や着替えは必ず居室でおこない、特に言葉使いや声掛けには注意しながら支援している	利用者の人格を尊重するため、言葉使いには最善の注意を払い、1人ひとりの性格やプライドを念頭に置いた声掛けの仕方に留意して取り組んでいる。特におむつ交換や着替えは必ず居室で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体として決定して頂いている。決定が間違っただとしても見守っていくようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞きながら、希望に添った支援をおこなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には必ず家族と相談しながら準備をお願いし、本人に合うよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであり塩分控えめにして提供している。利用者で可能な人は準備などのお手伝いをして頂いている。職員も一緒に食事し、喫食の状況や摂取量を観察・記録している。特にお米は地元の等級Aの伊賀米を使用して地元の味を大切にしている。	嚥下を考慮して、車イス利用者も食事は食卓椅子である。食事が見えにくく食べ辛そうな方の食器をワンプレートにしてみたり、気分を変えてベランダでピクニック気分にしてみたりと利用者が食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は、特に主食は一食の量を決めて提供し、水分は一定量の補給をおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは大事なことであり、訪問歯科による指導受け個々にあったケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた指導をおこなっている。低下された方に対しては原因を追究し、支援を決めている	殆どが紙パンツ利用者であるが、時間間隔を見ながらの声掛け・誘導により、紙パンツの使用を減らし、排せつの自立に向けて、排泄レベルが低下した時は原因を追究し改善を支援する取り組みがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の観察は常におこない、快適に過ごして頂くようにしている。また、個々によっては薬で出ない場合は詭便などのコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は基本的にも実施している。幸い施設は景色が一望でき露天風呂の気分を味わっていただける。夏場は入浴以外にシャワーを浴びたりして頂いている	露天風呂気分や山や湖を眺めながら入浴でき、気候の良い日は広いテラスでの足湯も楽しめる。大半が車いすなので、時間帯の融通は難しいが、シフトを工夫・融通しながらできる限り週3回入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は大事な業務であり、各自が薬の内容を把握し、服薬後の状況変化等の観察や誤薬や飲み忘れのないよう指導している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を考えながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然が楽しめる施設である為、ウッドデッキで食事をするだけでも外出感が味わえるし、広い芝生でくつろいで食事をするだけでピクニック気分を味わえるようそれぞれ工夫しながら支援している。季節毎の外出は、常に行っている	立地が山中であることと車いす利用者が多いので、日常的な外出ができない分、目標達成計画に従い、戸外の空気を満喫して貰える様、湖に面した広いテラスや庭の芝生でピクニック気分や昼食やおやつを楽しんで貰っている。戸外の散歩も実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは自由であるしお金の大切さも十分理解しているが、実際には所有している人はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を書いたり自由である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広く利用者が快適に過ごせるよう工夫しており、蛍光灯も昼光色を使用し温もりを感じていただいています。職員が毎日環境整備を行い清潔・不快解除を行っている。	食堂と居間の大きな掃き出し窓から山間の湖の風景が楽しめ、開放的な雰囲気となっており、昼光色の蛍光灯が温かみを添えている。利用者にとって不快感を招くような要素は全くなく、居心地よく過ごせている。職員による華やかな装飾はなされていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、各々自分の居場所は自由にしており、テレビを見たい人はソファでくつろぎ、食堂の自分の席で過ごされる利用者もおられ各自自由に過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活してきた部屋の延長を、各部屋にも置けるように家族と相談して居心地の良いようにしている。	馴染みの物で病状変化の際つまずくものを避ければ持込み可ということであるが、各室にクローゼットが設置されているので、すっきりとした感じになっている。写真がたくさん置かれた装飾のにぎやかな居室もある。	入所前の訪問時に、今迄愛用してきた物や思い出の品は、施設での癒しとなり落ち着くことができると、ハードの持つ介護力を家族に力説し、持ち込めるよう更なる支援を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全員が参加できるレクリエーションなどを行いながらできることをやりながら毎日楽しく過ごせるよう工夫している		